

「JAPAN JOB FAIR 2019」のデリー開催、 現地学生と日系企業の出会いの場に

1. 概要：

インド・デリーで2019年12月に行われた人材マッチングイベント。本イベントは経済産業省主催事業であり、イノベーションや新商品・サービス開発、事業の海外展開等の戦力として高度外国人材の採用を支援することで、高度外国人材の日本でのさらなる活躍推進につなげることを目的とする。

2. 基本情報（イベント概要）

- イベント名：JAPAN JOB FAIR 2019
- ウェブサイト：<https://japanjobfair.go.jp/>
- 開催日時・場所：2019年12月7日、8日（デリー）
- 主催者：経済産業省（業務委託業者：パソナ、ジェトロ）
- 規模：出展企業数12社、登録者数684人、来場者数246人
- イベント概要：日系企業への就職を希望する現地学生と日系企業とのマッチングイベント

3. 詳細内容

インド・デリーにおいて、2019年12月7日と8日の二日間にわたり、マッチングイベント「JAPAN JOB FAIR 2019」が開催された。7日は参加企業が希望した大学を訪問し、大学側から就職に関する説明を受けるとともに、学生との交流を図る交流会が開催された。8日がジョブフェア本番であり、事前にイベント参加登録を行った学生が会場に来場し、日系企業との合同説明会にのぞんだ。



開催を待つ学生の様子

本イベントは、インドのみならず、インドネシア、ベトナムと、全3か国6都市で実施されたものであり、イベントの特徴としては、アジア各国の日本語能力もしくは理工系の優秀な学生と日系企業とをマッチングし、その場で会社説明や面接、内定までの採用手続きを進めることができることである。

イベントの主催者は経済産業省であり、日本企業が優秀な高度外国人材を獲得し、海外ビジネスを拡大していくことを支援することを目的とするものである。参加した日系企業12社は、各々が企業ブースを出展するとともに、会場に設けられた個別の面接ブースを利用し、来場した学生たちに積極的に自社をアピールした。

<現地学生の熱意>

会場はニューデリー・インスティテュート・オブ・マネジメントの5階建てビルをほぼすべて利用し、出展企業ブースは1フロアに集約された。各ブースには説明を聞こうとする順番待ちの学生があふれ、関心のあるブースを渡り歩き説明を聞く学生や、説明を行う日系企業社員に熱心に質問する学生が多くみられた。



企業ブースを訪れる学生の様子

<出展企業によるアピール>

本イベントでは、企業ブースにおける個別学生への説明に加えて、希望する企業は、ホールを利用して企業説明を行うことができた。各企業は現地学生へ自社の事業や取り組みについて積極的にアピールを行い、また、日本で勤務することになった場合のサポート体制などを詳細に説明していた。



プレゼン会場の様子

<日系企業の印象を聞く>

イベント開催中、ジェトロ担当者が来場した学生へのインタビューを試みた。驚くべきことに、参加学生の日本語能力はおおむね高く、日本語での簡単な受け答えには支障がないことが多かった。また、日本で働くことにも積極的であり、日本で生活して技術を身に付けたいと語った学生も多かった。日本で働くことの一番の不安は、「食生活」という答えが多くみられた。



学生へのインタビューの様子

<ジョブフェアを終えた日系企業の声>

本番前の各参加企業からは、どのようなレベルの人材が参加するのか、また、十分な人数が来場するのか不安であるという声も聞かれたが、実際には予想を上回る来場があったとともに、日本語レベルの高い学生や、参加日系企業の事業内容を詳細に調査したうえで参加した学生など、優秀な学生と多く出会えたという声が参加企業から上がった。

日本で働くことに積極的な学生が少なからず存在するという事実や、日本で不足しているといわれるIT人材確保の観点等からも、積極的にインド人材を日本企業に紹介する何らかの取り組みを継続していくことは重要であるといえる。

<2020年度の開催>

2020年度の本事業、新型コロナウイルスの影響を受けてオンラインでの実施に形を変えた。インドでは2020年12月12日（土）と13日（日）の2日間に渡り日系企業14社が学生向けに企業説明会を行うなど、インドの現地学生に採用をアピールする場がオンラインにて設けられた。

昨年度に引き続いて参加する企業もあり、コロナ禍にあっても、依然としてインド人材への興味関心の高さを窺わせている。